

2024年
7月1日 No.1753



週刊

教育資料

EDUCATIONAL PUBLIC OPINION <http://www.kyoiku-shiryo.co.jp>



潮流

社会教育士が学び合う コミュニティに

一般社団法人日本社会教育士会代表理事 平井康章 ①

資料

「こども未来戦略方針」を踏まえた学校給食に関する実態調査の結果について

——文部科学省

CONTENTS

▶ 2 潮流

社会教育士が学び合うコミュニティに

平井康章(一般社団法人日本社会教育士会代表理事)①

▶ 5 解説・ニュースの焦点

○地域教員希望枠を活用した教員養成大学などの機能強化で21件選定

○いじめ重大事態調査のガイドライン改訂で素案

編集部

▶ 8 特集

教師不足問題への対応

編集部

▶ 14 校長講話

「やりたいこと」が見つからない生徒のために
関根郁夫(埼玉県立浦和高等学校元校長、埼玉県教育委員会元教育長)

▶ 16 実践! 校長塾

不易を基本に流行を取り入れる②

長島田鶴子(千葉県・木更津市立清川中学校校長)

▶ 19 資料

「こども未来戦略方針」を踏まえた学校給食に関する実態調査の結果について

文部科学省

▶ 35 教育問題法律相談

カスタマーハラスメントと公務災害認定

三坂彰彦(弁護士)

▶ 36 学習指導要領のアイデアを実践する

「次期教育振興基本計画」から考える⑬

玉置 崇(岐阜聖徳学園大学教育学部教授)

▶ 38 私たち、子どもの全力サポーター!

差別や偏見は構造の中に

立崎愛枝(公認心理師)

▶ 40 地方議会から〈注目の質問ダイジェスト〉 特別支援教育③

編集部

▶ 42 変わる教育委員会

みんなで育てる有田市子ども

～有田市のコミュニティ・スクール～②

中西朋子(和歌山県・有田市教育委員会教育総務課統括指導主事)

▶ 44 現場仕込みのメンタルケア論

#名前の付かない教育活動

川上康則(東京都・杉並区立済美養護学校主任教諭、
立教大学兼任講師)

▶ 46 こう進める! 保護者・家庭との連携

保護者トラブルの解決を支援
文科省の新事業の目的と課題

長島ともこ(フリーライター・エディター)

▶ 47 BOOK

『実験の民主主義』

トクヴィルの思想からデジタル、ファンダムへ』

『捨てられる教師 AIに駆逐される教師、生き残る教師』

▶ 48 自著を語る

『なぜ東大は男だらけなのか』

矢口祐人(東京大学大学院総合文化研究科教授)

▶ 51 データで見る教育

公立学校教員の職名別・年齢別給与試算
(令和5年度) など

▶ 52 マイオピニオン

給特法は「定額働かせ放題」か

菱村幸彦(国立教育政策研究所名誉所員)

潮流

一般社団法人日本社会教育士会代表理事

ひらいやすあき
平井康章さんに聞く①



撮影: Owl 李春湖

1958年生まれ。創価大学教育学部卒。立教大学大学院文学研究科前期課程修了。文学修士。全国社会教育職員養成研究連絡協議会代表理事を経て、2020年7月から一般社団法人日本社会教育士会代表理事。専門は社会教育学。創価大学通信教育部准教授。

社会教育士が学び合う コミュニティに

社会教育士の称号を得た人が
学び合うコミュニティを目指して
その専門職としての力量を伸ばし、
情報交換や発信できる場にしたい、という。

令和2年度から付与された新しい称号

——社会教育士とはどのような方を指すのでしょうか。

平井 社会教育士は、平成30年の社会教育主事講習等規定の一部改正によって、令和2年度以降の新たなカリキュラムによる社会教育主事講習または大学などの社会教育主事養成課程の修了者に対して付与される称号のことです。文部科学省の調査によると、令和5年度末までに累計で7047人（令和5年度は2521人）に付与されています。

——令和2（2020）年に日本社会教育士会が設立されました。

平井 社会教育士が生まれるタイミングに合わせて、その受け皿となる会として設立したもので、社会教育士自身が専門職の職能集団として会を運営し、会員の力量向上のための研修や、幅広い分野で活躍する会員相互の情報交換を行い、ネットワークを形成していくことを目指しています。併せて、社会教育士の地位向上にも取り組んでいきたいと考えています。

——社会教育の専門家というと、一般には社会教育主事という職があると思うのですが、どう違うのでしょうか。

平井 社会教育主事は、社会教育法に基づいて教育委員会に置くこととされている専門的職員のことです。社会教育主事になるには、大学などの社会教育主事養成課程での必要単位修得や国や都道府県が実施する社会教育主事講習の受講の他に、一定期間の経験年数が必要です。また、教育委員会の発令が必要な「職」です。なお、自治体によっては、学校の管理職になる前に、教師に社会教育の分野の経験をさせるところもあります。

社会教育主事は、学習の主体である地域の住民をサポートする役割を果たしています。しかし、どちらかというと目立たないこともあって、法令上は設置の義務がありますが、任意設置を求める首長もあり、全国的には都道府県や市区町村の教育委員会での職員数は減少傾向にあります。

これに対して、社会教育士は、社会教育主事養成課程の必要単位を修得した時点で直ちに「社会教育士」と称することができます。市民・NPO団体や企業、行政など、さまざまな立場から地域の教育や福祉、防災、環境、地場産業などの領域で、人々の学びの支援やネットワークを通して、人づくりや地域づくりに関わる役割を担うもので、受講者数も増える傾向にあります。

なお、令和2年度以降は、社会教育主事講習・養成課程に「生涯学習支援論」と「社会教育経営論」の2科目が新設されたほか、社会教育主事養成課程において「社会教育実習」が必修化されています。

専門職としての力量形成をサポート

——日本社会教育士会としては、どのような活動を展開していくのでしょうか。

平井 活動方針としては、①専門職としての社会教育士の力量形成②ネットワークの形成③関係情報の収集・発信④調査研究の推進——を掲げています。具体的には、力量形成を目的にした研修会の実施、研修会の質の向上の展望などをテーマにしたシンポジウムや講演会の開催、ニュースレターの発行などを予定しています。

社会教育士になりたての方も、会員になることができます。新しく社会教育士になったばかりの方たちで運営する交流会などの活動も行ってきました。

——社会教育士になるには、どのような方法があるのでしょうか。

平井 養成課程のある大学で必要な単位数を取得するか、社会教育主事講習を受講する

と社会教育士の称号を得ることができます。

教員養成系の大学などでは社会教育の職員養成の課程を設けている所もありますが、社会人の場合は、休職してまで大学に通うのは難しく、大学通信教育課程を選択したり、夏季などに短期集中的に開講される社会教育主事講習を受講するケースが多いと言えます。講習は以前よりも必要な単位数は少し減りましたが、それでも30数日、夏休みなどに一緒に学んだ人たちですから、その期間に知り合いになった人同士の人脈は貴重です。

残念ながら都市部など一部の地域を除くと、社会教育主事は自治体を超えた横の連携やつながりがほとんどありませんでしたので、社会教育士になるための学びを通して、培った人的ネットワークが有効に活用できるようにサポートしていきたいと思います。

——社会教育士になった方が活躍できる場をつくるのが大切というわけですね。

平井 社会教育主事が「職」であるのに対して、社会教育士は「称号」ですから、具体的な仕事や活動が決まっているわけではありません。だからこそ、社会教育について勉強して、社会教育士になった人が互いに情報を交換して、より専門家としての職能を高めていけるような関係が必要になってくると思います。

ます。

なお、日本社会教育士会はあくまで当事者である社会教育士の方たちによる組織ですが、発足時点では社会教育士の誕生前でしたので、大学などで社会教育主事の養成課程を担当している教員や、教育委員会の社会教育主事が設立時の役職を担当しました。発足5年後以降は、会の代表も含めて、社会教育士のみで運営する体制になる予定です。

社会教育人材の拡大で中教審も議論

——文部科学省が設置している中央教育審議会の生涯学習分科会でも、社会教育人材部会で議論が進められていますね。

平井 社会教育というと、公民館や青少年教育施設などの社会教育施設での活動のイメージがあつたと思いますが、最近、学校の地域学校協働活動のほか、NPOや民間企業などの社会貢献活動、首長部局などのまちづくりや地域振興、観光や防災、地域コミュニティづくりなど、多様な分野で多彩な人材が、人づくりやつながりづくり、地域づくりなどで活動の場を広げつつあります。こうした背景もあって、本来は社会教育主事を養成するための主事講習などで定員に余裕がある場合は、地域で活動している多様な人材が

専門性を高めるために受講していました。

そこで、中央教育審議会の社会教育人材部会でも、社会教育主事講習の定員拡大、受講者のニーズに応じた多様な受講形態の提供、社会教育士の活躍事例の収集やローモデルの提示、社会教育人材のネットワーク化など、養成や活躍促進のための改善策を議論しています。

——社会教育主事講習などに「生涯学習支援論」が新設されたとのことですが、どのような内容でしょうか。

平井 例えば、「ファシリテーション能力」なども生涯学習支援において重要な資質として指摘されています。これは、学校の関係者にとつても、探究など、児童生徒が主体になつて学習を進めていけるように、教師が学習支援をする場合などに応用できる考え方だと思います。

例えば、子どもたちに話し合いをさせることを中心にした授業でも、教師主導ではなく、子どもの活動への意欲や自発性を引き出しながら意識や行動の変化を促すことで、学びを支援していくことが大切になっています。学校教育も、今、学びへの支援の在り方が変わりつつありますが、社会教育の分野では、もともと先生と生徒という上下関係ではなくて、

互いに学び合うことがベースですから、自然に探究的な学びにつなげやすいという面があると思います。

また、社会教育の分野では、現実の問題を取り上げることが多いこともあって、答えが明確ではないことを学習者が探究していけるように支援していくことが基本ですので、そうしたスタイルを学校教育にも生かせる部分が少なくないと思います。

私が所属している創価大学の通信教育学部では、中高年の受講者も多く、自分の専門や得意なことを生かして、地域で貢献したいと考える方もいます。社会教育士という称号は、そうした地域社会との関わりを前向きに考える際に、励みの一つにもなります。

地域社会で自分の専門性や得意なことを生かすために、さまざまな経歴を持つ社会教育士との連携をしていくことは、学校教育にとつても意義があると思いますので、私たちの活動について、注目していただければ幸いです。

一般社団法人日本社会教育士会
＝ <https://sites.google.com/view/shakyoshikai/home?authuser=0>

